グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト
米国現地研修ジャーナル（2001年３月24日－４月５日）

鳴門市立明神小学校　教諭　　上　田　美　織

３月25日（日）

早朝、一人で散歩にでる。マジソンホールの周りは、自然がいっぱいで気持ちがよい。草花は日本のものとほとんど変わらない。ガサッという音がして振り向くと、すぐ近くに野生のリスがいる。そう思って周りを見ると、たくさんのリスに気づく。折れた木の枝で遊ぶかわいい姿には思わず見とれてしまう。

鳥の声にも驚かされる。ひときわ大きな鳴き声に目を凝らして探してみるが、どの鳥の声なのかよく分からなかった。たくさんの種類の鳴き声がするので鳥の種類もたくさんいるのだろう。日本では見かけない鮮やかな色の鳥も見かけた。

14：00からBelk Buildingで、絵の表彰式があり見学に行く。バーバラ先生が教えている生徒の作品も多く展示されていて、表彰される子どももたくさんいた。表彰式には親も共に出席し、一緒に写真を撮る姿が日本とは違うなと思った。

17:00 ロイスさんの車で、Lake Junaluska Assembly目指して出発した。そこでは、18：00より、わたしたち一行の歓迎レセプションを準備してくれていた。受け入れ校の先生や通訳の人も参加してくださりにぎやかなレセプションだった。子どもたちのスクェアダンスがとてもよかった。わたしたちにも、子どもたち２，３人が組になって教えてくれた。

わたしたちは、阿波踊りを披露した。踊りの輪は参加者を巻き込み大きくふくれあがった。踊りが終わって、踊りに使ったうちわを希望する子どもたちが多く、次回にはたくさん準備するといいなと思った。

３月24日（月）

朝食を大学のカフェテリアで食べる。

９：00　フェアビュー小学校に向けて出発。フェアビュー小学校では、子どもたちが手話の歌で出迎えてくれた。その後、学習のようすを見学した。一つ一つの学級が棚などで仕切られた空間であり、わたしたちが概念的にとらえている教室とはかなり異なっていた。

学習形態も様々で、課題によって小グループを作り実験をしている学級もあれば、算数の学習を具体物を使ってしている学級、コンピュータで検索をしている学級などがありそのどれもが、児童が主体的に動いている姿に感心した。学習に関連の深い図書なども完備されていて、教師の細かい配慮と計画性が感じられる。

野外学習に特に力を入れているようで、観察の森がある。自然を利用して、学習に生かしている。そこでは幼稚園から８年生まで、理科の学習だけでなく、バードウォッチングや自然観察、詩や俳句作り、環境調査など各自のテーマにそった学習を進めている。特に環境教育では、グローブのプログラムに参加し、酸性雨などを調べてデータを送っているそうだ。

体育館では、体育教師の研修会が行われており、自分もその仲間に加えてもらうことができた。内容は、今日本で取り組んでいるものに似ていて、グループで助け合って活動するゲーム的なものが多かった。また、体育のゲームをすることで数字の概念やアルファベットを覚えさせるなど合科的なものもあった。体育の先生は、みんなフランクで、分からないことは事細かに教えてくれたり、自分のチームへ誘ってくれたりと突然の参加者を快く迎えてくれた。

特に、ここで勉強になったのはカードの指示に従って運動する筋力トレーニングの方法と、ペットボトルなどをリサイクルして教具を作っているところだった。

午後、スモーキーマウンティン・ハイスクールを訪問する。音楽の授業に感動する。先生が指揮をしているが、自然な感じで歌い、エレキギターやシンセサイザーなども生徒が演奏をしていた。美術の教室では、いろいろな手法で絵を描いていたり、舞台で使うのだろう家のセットらしきものも制作されていた。技術の教室では棚を作っていた。電気自動車も制作されていて実際に校庭で運転していた。

見学後、メディアセンターで、質疑応答の時間がもたれた。学生の人種構成について白人が90パーセント、マイノリティーが７～８パーセント、チェロキーが１～２パーセントだと話してくれた。履修については、４年間にとるカリキュラムを自分で構成することがで

きる。また、高校に在学しながらカレッジの講座を受ければ大学の単位を取ることも可能だ。健康教育では、エイズ・ドラッグ・喫煙・避妊について、保健体育の授業の中で州の決めたユニットに従って行われる。保健体育の中で体育と保健の割合は１：１と日本に比べて保健教育に力を入れている。

午後６：00　Scottes Cleek School の女性教師が集まって、同僚（クリスティー）の新築の家で調理器具セールスのパーティーをするというので、参加させてもらった。アメリカの家を見せてもらえるということでわくわくしながらいった。それほど大きな家ではなかったが、インテリアがとてもすてきで、アメリカらしさが至る所に感じられた。特に、キッチンがすてきでディスポーザーや大きなレンジ、足でペダルを踏めば水がでるシンクも便利さに感心してしまった。

３月27日（火）

カレンさんが、マジソンホールまで車で迎えに来てくれる。彼女の二人の息子も、Scottes Creek School の生徒なので、一緒に出勤（登校）。学校に到着すると、校長、副校長先生は子どもを送ってきた車の整理や出迎えに追われていた。

まずスタッフルームのような部屋へ行き、少し休憩、その後校長先生に挨拶をしたり、日程表をもらったりした。日程表を見ると、どの学級とも、どの先生とも授業を共有することができるように配慮してくださっていた。

第一日目は、Tour of Schoolから始まった。校長先生が、校舎の中を案内してくれた。途中で子どもたちと会うと、コンニチハ！と、手を振りながら日本語で挨拶してくれる。また、通路の壁には、日本をイメージするような、招き猫の絵や着物を着た人の絵、漢字を書いた飾りなどが飾られていて、わたしを歓迎してくれていることがそこからも伝わってきた。 その後、Kindergartenへ行った。メインの校舎の中にあり、まるで小学校の一学級といったようすだった。ひとつのクラスでは絵本を使ってアルファベットの勉強をしていた。すてきな本だったので感心して見ていると、サインをしてその絵本をくださった。また、レストランごっこでは、レジでお金を払ったり、注文されたものをまちがわずに客に出すなど遊びの中に、学習が組み込まれていた。子どもたちが、指人形を上演してくれたのもとても上手だった。seasonの学習では、それぞれの季節に関係のあるものを集めて文字や絵で書き表していた。

Pre-K は、ビデオを見たり、大型ブロック遊び、お絵かきなどをしていた。お絵かきは、テーブルいっぱいに大きな紙を貼り付け、みんな思い思いに絵を描いていた。人間や動物を書いた子どもは、それに名前を付けて、名前を文字で記していた。

次に、３年生の体育の授業を見た。体育館を８つの天気の場（雪、氷、雷、雨、雲、雹……）に分け、教師の合図で、交代しながら８つの運動に挑戦をする。特におもしろかったのは、氷で、板の下にキャスターをつけたものを腹の下に敷いて、コーンをよけながらジグザグに進む。楽しみながらいろいろな動きを体験させるというねらいである。ネットの中に紙を詰めて作ったお手玉のボールやキャスターのついたボードなど、リサイクルして作られた教具もありとても勉強になった。また、25人の学級であったが、他の教科のように２名の指導者がついており必要な支援を行っていた。

今度は、バーバラさんの教室へ行きアートの授業を見る。４年生の授業は、恐竜を画用紙に書いていたが、紙を恐竜の形に切って貼り付けていた。その紙は、リサイクルの紙を使っていた。バーバラさんの教室には、リサイクルの紙やペットボトル、ひもや毛糸など種類別に分けて大きなリサイクルボックスに入れていて、それを利用してた。これは、日本に帰って自分も取り入れていきたいことである。１年生のアートの授業では、バーバラさんが準備してくれていた「はなさかじいさん」の紙芝居を、日本語と英語交互に読み、それをもとに絵を描いていくという勉強だった。思い思いに書いているが、大きな木と、犬のしろは、どの画面にも描かれていて、お話の内容をよく理解し、自分の心の中でふくらませた絵が描けているように思った。

Art の教室には、生徒の作品が飾られていたが、中でもジョージ・ワシントンの人形を作っているのがアメリカらしいと感じた。また、廃品を利用して作ったおもちゃも興味深かった。

ランチを食べに、カフェテリアへ行った。自分の食べたいものを選び最後にレジでお金を払ってテーブルへ運ぶというスタイルだが、お菓子のようなものばかり選んでいる子もいて、日本で考える給食のイメージ

とはかけ離れている。栄養面はどうなのか気になるところだ。子どもたちに混じって、ランチを食べる。あちらこちらから、挨拶の言葉が発せられ、手を振ったりニコニコして寄ってくる子、話しかけてくる子など教室での姿とちがい、とても人なつっこく興味津々といった感じだ。ランチは、学年で交代に食べる。たとえば、Pre-Kは10:00から（クラスで）、Kindergartenは10：00〜10：30、1年生は10：10〜10：40、2年生は10：20〜10：50……8年生は11：00〜11：30……6年生は11：40〜12：10というふうに。

今日の通訳は、ジョナサンで、彼は日本で少しの間英語を教えていたそうだ。3：00からの歓迎レセプションでは、かなり助けてもらった。レセプションには、教職員だけではなく、生徒の親や祖父母も来ていて、たくさんの人と話ができてよかった。

3月28日（水）

学校に着いて、バーバラさんが来るまで玄関のベンチに座って待つ。その間も、登校してきた子が“コンニチハ”と挨拶をしてきたり、話しかけてきたりと楽しいひとときだ。

バーバラさんが到着したので、一緒にスタッフルームへ行った。スタッフルームでは、コーヒーをセルフでマグカップに入れ、それを持ってバーバラさんの教室へ行った。スタッフルームには、連絡のボックスがあり、職員同士の連絡や、学校側からの連絡（スケジュールも含めて）も、ここを通じて行われているようだ。毎朝、アメリカの国歌が流れ、その後、宣誓をする。アメリカでは、国歌や国家を大切にしている。こういうところは、日本人がもっと見習わなければならないところだと思う。

8：30から1年生のクラスに行った。15人という少人数で学習が展開されていた。write and readingの時間で、三匹のこぶたのお話を読んで、こぶたに手紙を書く学習だった。書けた子から、先生に見せに行っていた。わたしにも見せに来てくれた。日本でも、漢字がまちがっていることがよくあるが、単語の綴りがまちがっていたり、過去形になっていなかったりと、わたしでも分かるまちがいがあり、少し教えることができてうれしかった。

9：00からは2年生のクラスでの学習を見た。20人の学級だったが、4〜5人のグループで学習をしていた。先生と一緒に学習をするのはreadingで、そのほかにプリントに従って取り組んでいた。教具を使って図形の学習をしているグループ、カードを使って引き算ゲームをしながら問題の意味を理解しているグループ、同じ意味を違った表現の仕方で書き表す学習など、算数も国語も、混ざった学習だった。

9：30からは4年生の詩・俳句の学習だった。今までに作った俳句をわたしのためにファイルにとじ、料理のレシピも付け加えて、プレゼントしてくれた。また、コウモリについて調べたことをまとめているファイルを見せてくれた。今作った詩に絵を描いて、一人ずつ発表している姿に自信がうかがえた。

10：00、2年生のもう一つのクラスでは、科学の学習をreadingを通してしていた。The Magic School Busという本を使って学習していたが、その本は、水が、周りの環境でどのような変化があるのか、体の中ではどうなのかなど、水を科学的に見てかいていて、しかも楽しく、子どもたちが喜んで読める絵本だ。このクラスは、23人だったが、先生は3人いて、教えている教師の外に学級事務や教材づくりなどをしていた。また、入り口のコーナーで言葉の学習を先生と1対1でしている子がいて、その学習を終えると、みんなと同じ場所に合流していた。

10:30、メディアセンターでは、1年生がコンピュータを使って算数の勉強をしていた。壁面には、コンピュータのパーツの説明やキーボードについて、インターネットの安全な使い方、インターネットアドレスウェブページの見方やリンクの仕方など事細かに掲示物が張られていた。音の必要な子どもは、ヘッドホンをして、ゲーム感覚で学習をしている。自分のステージをこなしていき、できたところまでを登録しておく。また次はその続きをしていくという形で個別学習をしていたようだ。

音楽は、わたしのために特別なカリキュラムを組んでくれているというので楽しみにしていた。午後から6年の音楽だった。教室に入ると、早速音楽が始まった。先生が縦笛をふき、鉄琴と笛で子どもたちも演奏してくれた。日本の雅楽のような音楽だったが、インデアンの音楽ということだった。その後、先生の笛の演奏で、さくらを日本語で歌ってくれた。子どもたちの中には法被や着物を着た子どももいて、いろいろと気を遣ってくれているのには感動した。

7年生の学級では、書道のデモンストレーションをするだけでなく、生徒たちに書いてもらった。漢字には書き順や意味があること、日本の文字は漢字だけでなく、ひらがなやカタカナも使うことなども話した。ちょうど季節が春だったので、「春」「花」という2文字を書くと共に、それに関する日本の話もした。花については、日本も、ノースカロライナも同じ種類のものがたくさんあって、共通性があり心がかなりつながった。実技をする生徒は、担任の先生に決めてもらったが、当ててもらえなくても素直に従っていた。また、日本の生活についての質問もあり、制服についてやバイクや車の運転ができる年齢学校の登下校時間、などに興味があることが分かった。女の子からは、お化粧やピアスなどについての質問もあり学校では許していないことを話すと驚いていた。

3月29日（木）

この日はどの教室でも、日本の文化の紹介をさせてもらった。書道をさせてもらったり、こまや紙風船で遊んだり、折り紙や、阿波踊りもした。折り紙では、みんなで兜を折り、頭に被って記念写真も写した。最近日本の子どもたちも、折り紙を折る機会が少ないので、それほど変わりない時間で折り上がった。日本の新聞を正方形に切って持参していたもので折ったので、かなり喜んでくれた。兜の説明に日本のこどもの日の行事やそれに対する親の願いなども話した。阿波踊りは、笠やうちわ、豆絞りなども着用させて踊りを教えた。そのあとみんなで踊ってとても盛り上がった。ダンスはどの国でも心をわくわくさせるもののようだ。

ハンディーキャップクラスでは、生徒たちが考えた料理をして迎えてくれた。わたしにお箸の使い方を教えてくれるようにといわれたので、指のかけ方や動かし方など、ゆっくり教えて使ってみてもらうと上手に使っていた。

4:00から新しい学校の見学に行った。今の学校は、校舎が狭く、トレーラーハウスのような細長い仮の教室が多かったので、新しい学校への期待も大きかったと思う。新しい学校まで、車で5分程度で到着した。まだ出来上がってはいなかったが、概ねの形は整っていた。特に自分の学級は気になったり、みんなにも観てもらいたいようで、「私のクラスを観てちょうだい。ここはこんなになっているのですよ。この奥にも、こんな部屋がありますよ。窓からはこんな景色が見えますよ。」と、説明をする先生もいた。理科室には、頭からシャワーをできる設備や目や顔面だけのシャワーも設置されていて、もしも、に備えた設備が施されている。体育館はとても広くフロア中央には、学校のシンボルであるカーディナーという鳥の絵が描かれている。また、器具の収納庫も広いスペースをとっていたり、シャワーや更衣室も作られていた。体育館のすぐ横にはステージがあり、演劇やコンサートができるように幅も奥行きも広く、照明や音響面もとてもすばらしい。

学校の庭園は、バーバラさんが設計した日本庭園を置くようだが、まだ出来上がってはいなかった。

5：00からフェアビュー小学校のカリキュラムフェアーに行った。最初は体育館で各学年の紹介があり、その後、展示を見に行った。環境について調べている学級、チェロッキーの歴史について調べている学級、絵や工作を展示している学級などさまざまだったが、日本の文化祭の展示のような感じだった。

3月30日（金）

訪問最終日、4日目ともなれば、親しみがわいてきて、どの子と会っても、手を振ったり挨拶をしてくれる。小さい子だけでなく、7年生8年生も積極的で、自分の紹介や文通をしたいことなどを手紙に書いて渡してくれる。本当にかわいい子どもたちだ。今日は、ファイヤードリルがあった。日本のように静寂の中でというものではなかったが、手順良くできていた。今日も、いくつかのクラスで、折り紙や阿波踊りなどの学習をした。

この日の授業が終わって、玄関で子どもたちの下校に立ち会い、お別れを言った。今日で最後とは思えず、また明日も会えるような気持ちでのお別れだった。

メディアセンターで、副校長先生が、校長先生のために企画した新校舎完成祝いが行われた。ケーキの上には、新校舎の絵を描いたライスペーパーが貼り付けられていて、副校長先生の心配りが感じられた。この会の最後に、お世話になったお礼を言って、スコッツクリーク校を後にした。

バーバラさんの家でホームステイすることになっていたので、荷物を運び、夕食に出かけた。夕食は、アラスカ出身のアンジェ先生と日本に興味を持っているサバンナ、キャサリンという二人の生徒と一緒に名前

は忘れたが美しいホテルのレストランに行った。

3月31日（土）

サバンナ、キャサリン、バーバラさんとわたしの4人で、チェロキーミュージアムに行った。このミュージアムは、チェロキーの歴史や、生活がよく分かるよう展示が工夫されていて、勉強になった。また、マーケットでおみやげなども買いながら、民芸品からチェロキーの生活の様子を垣間見たようであった。ミュージアム付近には、土産物・民芸品店もありチェロキーの踊りを見せるステージもあった。

夜は、いつもマジソンホールまで迎えに来てくれていたカレンさんの家でお別れパーティーを開いてくれた。新しいジャックシーを買ったと言うことで、水着持参のことといわれていたが、子どもたちが占領していたのと、少し寒いと言うことで、食事をしたり、踊りをしたりというパーティーになった。同僚を呼んでのパーティーだったがさすがアメリカ、夫婦そろっての参加でとても楽しかった。日本に住んでいたことがある人もいて、話を聞いてみると、沖縄にいたとか神戸に住んでいたという。日本語はほとんど話せないが、地名がでてくると、懐かしそうにしていた。カレンさんの家から帰るときは、みんな別れを惜しんでくれ、抱き合った。

バーバラさんの家に帰って、バーバラさんが日本で写した写真や、日本の文化を紹介したビデオなどを見せてもらう。彼女の日本に対しての気持ちがよく分かる。バーバラさんの家では犬を4匹飼っている。どの犬も人なつこく、わたしにも甘えてきてかわいい。

4月1日（日）

午前中はバーバラさんの家でゆっくりしたり、近くをドライブしたりする。午後、州都のローリーへ向かった。鳴門地区全員が一つの車に乗り、移動中にサマリーに向けてのまとめの計画をする。ブラウンストーンホテルに到着後、夕食をこの訪問に関わった日米の先生全員が夕食を同じ場所で食べた。夕食後はいよいよ、サマリーに向けての資料づくりが夜を徹して行われた。発表の内容を分担し、原稿を書く。それを、英訳してもらう。模造紙には英語でポイントを書き、パワーポイントでも発表できるよう香川先生ががんばってくれた。

4月2日（月）

朝のすがすがしさに誘われて、ホテルの周りの散策をする。ホテルの裏側では、リスやイタチ？を見つける。10分ぐらい歩いたところで、開いている店があったので入ってみる。店の人は日本人のような顔だったので聞いてみると、韓国人だった。

9時からサマリーが始まった。スペンス先生の挨拶やスピーチ、米川先生のスピーチなどの後、日本側の参加者、アメリカ側の参加者の紹介があった。

その後、広島地区の発表、大阪地区の発表に続いて鳴門地区の発表に移った。

我々の発表は「アメリカの教育における公平さの追求」についてである。

1　はじめに（アメリカの国民性）
　①すべてに対してフェアー
　②子どもを大切にする
　③教育を受ける権利を保障している
2　育てたい（求められている）子ども像
　①小学校において、中学校において、高校において
　②生徒の実像
3　ノースカロライナの教育について
　①方向性
　②多様性
4　わたしたちが学んだこと
　①個に応じた教育の展開
　②教師の地位確立のための研修制度
　③教育環境の充実
5　わたしたちが疑問に思うことや提案
6　終わりに

といった流れで行った。わたしが受け持ったのは4の「わたしたちが学んだこと」であった。

その後、12：00～14：00の食事の間に、スピーチや協定書へのサインもなされた。午後は、2000年6月に日本を訪れた先生からの報告があった。それを見聞きしながら、わたしたちも、お互いの国を理解し、交流を深めていく活動をしなければならないと心に強く思った。

夕方、州議会を見学する。ボランティアの高校生が、活躍する姿も見られた。

4月3日（火）

エクスプロリススクールを見学する。生徒たちが、

案内してくれたが、途中での質問にも、的確な返事をしてくれた。自分でしっかりと考えたり、今、自分たちがしている内容をとらえられているのできちんとした答えができるのだろう。世界地図の中にそれぞれの地域で起こっている事象の写真を切り抜いて貼り付けている掲示物が印象的であった。平和学習をしているクラスでは、ナチスやベトナム戦争に関するものなども調べて立体的な展示物として作り上げていた。しっかり世界的な平和に目を向けているのに関心をした。

エクスプロリスミュージアムでは世界の国々を理解できるコーナーもあり、日本について知ることもできた。ベルリンの壁があり興味深かった。また、株式や、経済の流通についてやファイナンスの勉強ができるコーナーもあった。疑問に思ったことや、調べたいことが学校のすぐ隣で調べられる。こんなよい環境がうらやましい。

科学博物館では、特に木の根っこなど土の中の様子の展示物に興味を覚えた。(日本ではあまり見かけない)

州教育委員会では、教育に関する資料がそろっていて、observation profile などの興味ある資料を購入した。これをもとにして、日本での評価方法も考えていきたい。

夕方からモール街でショッピングと夕食をする。たくさんの店があり、どの店も楽しくてすぐに時間が過ぎていった。おみやげを買ったり、自分の気に入った品物を買ったりと楽しい時間を過ごすことができた。

4月4日（水）

ホテルを出発して空港へ向かう。ローリーからデトロイトまで約2時間、デトロイト空港では免税店などでショッピングをして、関空へ向けて13時間45分の空の旅が再開された。機内では、飲み物や食事にはきっちりと起き、ゆっくり睡眠をとりながらの旅となった。

4月5日（木）

日本時間午後3時40分関西国際空港に無事到着。リムジンバスに乗って一路鳴門へ。バスの中では、今年度の人事が心配で、携帯電話をかけて情報収集をしたり、話題はその内容に終始し、現実に引き戻されたようだった。わたし自身も、次の日は日直であり、職員会もあってその資料づくりをしなくてはと気が急かされた。

アメリカでは、英語のシャワーだったのが、帰ってくると全然英語のない会話が続き、リラックスする自分を感じた。忙しくすぎた2週間だったが、たくさんの人との出会いや体験ができ、これからの自分に少し自信がついたように思う。

アメリカの教育から学んだ個別化学習を実践して
－米国スコッツクリーク小学校の訪問を通して－

鳴門市立明神小学校　教諭　　上　田　美　織

(1)　はじめに

日本では、一斉授業が可能であり、生徒の理解度も高く、みんなの能力が揃っているとよく言われる。また、実際に教えていてそう感じることもよくあった。

しかし、中にはみんなから取り残され、学年が進んでいくうちに、全くついていけなくなるケースもある。１学級の人数が多く、ひとりひとりに目を向けているはずが、目が行き届かなかったり、一人や二人の進度に合わせて、みんなが足踏み状態で待っていることが出来ないということも原因の一つだ。

能力別に分けての学習を実施しようと思っても、保護者の理解が得られない場合も多い。どうにかしてどの子にも力を付けることの出来る学習方法はないかと考えていた。

そんな中、米国スコッツクリーク校の訪問というよい機会が与えられた。

(2)　研究の概要

①　個に応じた教育の実際を観察して

ア．カリキュラムや学習方法について

個々の能力に応じたカリキュラムを形成して、スモールステップを踏み、１ステップごとにテストなどでチェックをしながら学力の定着をはかっている。しかも、そのカリキュラムの流れや、身につけさせたい学力は、ノースカロライナ統一のカリキュラムに従ってどの子の状況も細かくつかみながら高めていっているのだ。

また、小集団学習や教師と生徒１対１の学習形態で理解を深めている。小集団や個別指導をしている間、他の生徒はドリル学習に取り組むなど、能率的な方法をとっている。具体物を使ったり、ゲーム形式で楽しくしかもわかりやすい工夫もなされていた。

２年生のクラスでは、４～５人のグループを作りそのまとまりで動いていた。先生１人対生徒グループでリーディングをしている。他のグループはプリントに従って自主学習をする。引き算をしているグループあり、図形の学習に取り組んでいるグループあり、文法の学習をしているグループあり、ＴＴの指導で、ヒヤリングの学習をしているグループありだった。しかも、その内容によって机を移動していくので、同じ時間内でも気分が変わって異なる教科や内容でも集中できるのだろう。

１年生のクラスでは、コンピュータの計算ソフトを使い、自分のレベルに合わせて進めていき、終わったところで登録しておく。次時はそこからスタートできるというように、確実に自分のペースや能力に合わせて進めていけるのだ。

学習の遅れている生徒に対しては放課後の学習や、特別に教師が１名ついて授業中に指導するなどの手だてが組み込まれていて、学校の責任において基礎の学力を付けているところは学ぶところが大きい。

イ．全校一貫した取り組み

全校一貫した共通の掲示物や生徒の活動が見られる。たとえば、今回の訪問にあたり、歓迎の気持ちを込めての取り組みもそうで、校内のどこを見ても日本の絵や日本に関する資料がそれぞれの考えで表現して掲示されていたり、日本語の挨拶がどの学年でも聞かれた。

また、言語のハンディーキャップクラスが CARP（カープ）KITE（カイト）の「カ」という発音練習をしている期間、凧や鯉のペーパークラフトを、たくさんの学年で作り、飾るといった共通した取り組みがあり、個の学習に対する、集団の力というものを目指している気がした。

ウ．地域社会や保護者の協力

個々の教育を大切に、また可能にするために地域のボランティアや保護者の大きな力があることを忘れてはならない。生徒数に対しての教職員の数は、日本と比べようもないほど多いその上に、ボランティアや保護者が常時学校にいて力を貸したり支援をしてくれている。

これらの取り組みは、すべてアメリカの次世代を担う子どもの育成というアメリカ国民の願いを反映している。今、日本では個人主義の考えが多く、日本や世界の次世代を担う子どもなんだという考えが必要だと

感じる。

② 本校にあった個別学習を考える

ア．ひとりひとりの能力を知る

本校では、ひとりひとりの様々な能力の判断は、担任教師によってなされていて、何が出来て何が出来ないかという事柄についてはほとんど明記するような決められたものはない。学年の最後に指導要録に記載するが、細かな到達項目はなく具体的なことは分からない。

各教科ごとに学年別にチェックリストを作り、正確に生徒ひとりひとりの現状を知ることが必要であり、それなくしては、個に応じた学習の展開は出来ないと考える。各学年で身につけさせたいことを、スモールステップで評価（チェック）出来る表を作り、どの学年でも出来るようにしていけば、誰が指導にあたっても、次の学年になってもひとりひとりを見つめた学習の展開が可能となる。ノースカロライナのように統一したチェックリストが鳴門市でも出来れば、全市的に個にあった学習が進んでいくように思う。

イ．学習形態について

日本の学校現場の実体からいって、少人数学級・能力別学級の設立は今のところ望めない。そこで、①グループ学習　②補習　③能力別プリント（ドリル）学習　④個別学習機器利用　⑤課題別学習　などの方法が効果的ではないかと考えた。もちろん、これらの組み合わせもあるし、教科によっては合わない形態もある。これらは、今現在の学級そのままの取り組みである。

③ 個別学習を実践して

ア．グループ学習

4人のグループ（生活グループ）で決められた課題について取り組ませた。生徒によって得手不得手があるので、出来た者が困っている友達を支援する学習方法である。教科によって、リーダーになる生徒が変わるため、均質化するグループも多かったが、グループによっては、リーダーになれる生徒がいなかったり、逆に困る生徒がいなくて時間をもて余すなどのグループもあった。また、先に進みたい生徒への手だてが出来ず、せっかくの時間を無駄にしてしまうケースもある。

イ．補習

授業時間内に定着しなかった学習内容を、放課後や空き時間などを利用して勉強させた。ゆっくりひとりひとりと向かい合って指導が出来るため定着率はよいのだが、補習の時間がなかなかとれない。放課後は低学年のうちは時間の確保が出来るのだが、高学年になると、課外活動や児童会などの活動に、教師も生徒も時間をとられ、補習の出来る時間はほとんどない。空き時間についても、得意な教科がある生徒については、その課題が早く終わると出来ていない教科の課題に取り組む時間も生まれてくるが、補習をしたい生徒は、どの教科もどの課題も遅れている場合が多い。

長期の休みを利用して、今回は補習の計画を立てた。夏休みに、学校で勉強できる日を決め、出来るだけ出席をするように声をかけると共に、他の児童に対しても勉強に来てもよいことを話した。10日ほど、各2時間であったが、効果が上がった。本当に補習が必要であった児童は、5人だったが、そのうち3人はまじめに取り組み、2学期が期待される。休み中ということもあり、参加を強要できなかったため、後の2人は来たり来なかったりであった。補習を通じて、周りの生徒が自主的に教えたり応援したりする場面も見かける様になった。

現在5年生だが、九九が前から順にしか言えない子、二桁のかけ算わり算が出来ない子、繰り下がりの引き算がよく間違う子など、二，三年生のレベルで詰まっているのだ。病気と同じで、早期発見早期治療が必要である。

ウ．能力別プリント（ドリル）学習

一斉指導の後、計算や漢字の練習に使うことが多い。簡単なプリントから徐々に難しい物へと取り組めるようにしている。学習の進んでいる生徒や能力の高い生徒にとっては次々と進んでいけるので好まれる。しかし、学習の遅れている生徒にとっては、他の生徒が何枚目にも挑戦しているのに自分は一枚も出来上がっていないという、つらい気持ちに陥ることもあり、時間や内容など状況をよく考慮した上で行わなければ、逆効果になる場合もある。

エ．個別学習機器の利用

過去にもいろいろな個別学習機器があったが、現在はほとんど使われていない。スコッツクリーク校で見たようなコンピュータソフトがあればよいのだが、本校では購入をしていない。今後、開発をしたり、購入をしたりする計画はあるが今は使用できない。音読に関しては、自分のカセットテープに録音して音読の技

術を高めていくことはしている。また、詩の学習に関して、コンピュータを使って自分の作った詩に絵をつけて表現し、自分のフォルダーに保存するなどもしている。

オ．課題別学習

チェックリストで自分のつまずきを知り、同じつまずきの友達と一緒にグループになり、学習を進めていく。同じところでつまずいた子が多かったり少なかったりして、グループの人数に差があり、偏りすぎることもある。同じ課題で集まっているので、指導がしやすい。能力別グループに近いのだが、子どもや保護者はそうとらえないので、スムーズに学習が進められる。

④　個別学習教材の開発

ア．チェックリストの作成

各学年で、学習する内容を分野ごとに、いくつかのレベルに区切りそこまで到達しているかステップごとに評価できるように並べる。たとえば5年の小数の計算についていえば、

小　数

○整数、小数の十進位取り記数法が分かっているか。

○小数の10倍、100倍、1000倍を求めることが出来るか。

○小数の1/10，1/100，1/1000を求めることが出来るか。

○整数×小数の計算が出来るか。

1桁×小数点以下1桁

2桁×小数点以下1桁

1桁×小数点以下2桁

2桁×小数点以下2桁

○小数×小数の計算が出来るか。

小数点以下1桁×小数点以下1桁

小数点以下2桁×小数点以下1桁

小数点以下2桁×小数点以下2桁

○整数÷小数

割る数が小数点以下1桁

割る数が小数点以下2桁

○小数÷小数

割る数が割られる数より小

割る数が割られる数より大

○あまりのあるわり算で、あまりが正しく求められる。

○乗数と積の大小関係が分かる。

○除数と小の大小関係が分かる。

○文章題で、乗法・除法が正しく使える。

イ．チェックテストの作成

チェックリストにあった小テストを、ステップごとに作成・実施し、確実にマスターしてから次に進むようにする。

小数小テスト②

計算をしましょう。

① 0.135×10＝	② 0.135×100＝
③ 0.135×1000＝	④ 2.14×10＝
⑤ 2.14×1000＝	⑥ 2.14×100＝
⑦ 1.06×1000＝	⑧ 1.06×10＝
⑨ 1.06×100＝	⑩ 2.8×1000＝

ウ．能力別プリント

チェックリスト順で、適切な段階で区切りながら問題を記載し、出来れば次の段階へと進むようなプリントを作成する。理解が早く次に進みたい生徒のために、応用問題や、組み合わせての計算が必要なものなど挑戦意欲をかき立てるものを作る。

(3)　おわりに

一斉学習ができるというのは能率的であり、もちろん大切にしていきたい。それに付け加えて、個にあった学習の展開がさらに必要な時期に来ている。どの子にも基礎基本をしっかり身につけさせ、分かる喜びを味わわせることこそ、学級崩壊、登校拒否、非行の道を断つことにつながると思う。ひいては、保護者や地域社会に対しても学校の信頼を取り戻すことになるのではないか。

ＧＰＳＰで学んだことを現場で取り入れ、よい方法は市全体へと広げていくことこそ、我々の使命ではないだろうか。

グローバル・パートナーシップの展開
－スコッツ・クリーク小学校の訪問を通して－

鳴門市立明神小学校　教諭　上　田　美　織

(1)　スコッツ・クリーク小学校の紹介

①　住　所　516 Parris Branch Road Sylva, NC 28779

②　学校長　Wanda Fernandez

③　生徒数　K－8　約460名

④　組　織　全職員数　59名

スコッツクリーク校は、周りを自然で囲まれた静かな地域にある。保護者や地域の人は教育熱心で、しかも学校教育に理解があり親切だ。このよい環境の中で学習が進められている。

(2)　スコッツ・クリーク校の参観を通して学んだこと

①　学校長の教育観より

7月に本校の校長になったばかりで、まだ十分なことができていないが、生徒それぞれの持っている個性にあった教育の基礎力を付けたいと考えている。

精神的にもうまく成長させていきたい。学習だけでなく人との関係も成長できるような教育をしていきたい。

新しい学校の設立について次のような希望を持っている。新しい学校には広い施設があるのでいろいろなことができる。それで新しい学校に移ることをみんな楽しみにしている。先生も一歩上の気持ちになり、生徒も楽しんで学校に来られると思う。地域の人たちの考えの中では、今の小さな本校はみんなから忘れられた存在に思っている。新しい学校になることで、他の町の人と同じように認められ自信を持って誇れるのではないか。新しい学校ができることで、学校も地域も活性化するように思う。と期待が大きい。

このように、学校が地域の中で果たす役割まで考えていることに感動した。

②　掲示物から見えてくるもの

日本に比べてたくさんのしかもカラフルな掲示物がたくさんある。生徒の作品は日本のそれと共通だが、その他のものが興味深い。

まず、どの学級でも目にするのがルールである。社会のルール、学校のルール、学級のルールが掲げられている。今、悲しいことに日本ではルールはあって、ないような存在になってきている。ところが、ここノースカロライナには、きちっとしたルールが明文化され、守れないときの罰則も明確化されている。学校は、人間として大切なことを身につけるところ、そして、それを責任を持って確立するところであるので、これくらいの厳しさはあって当然なのだ。ぬるま湯に使った状態が、ふつうになってきて、ルールが少しぐらい守れなくても許してきた自分を発見し、反省をした。

学習事項の常掲がとても多い。日本では、単元が終わるたびに、それに関する掲示物は張り替える。しかし、定着のスピードは子によって異なる。それで、習ったことは、次々と掲示をしていくことによって、日常的に視覚を通してインプットされるので定着しやすい。

学級のどこかにはアメリカ国旗が掲示されている。また、教室に置かれている本や、教科書的な図書の中には自分の住んでいる地域ノースカロライナのことが書かれているものがあり、意図的に掲示や読み物とすることによって愛国心、愛郷心を育んでいるように思えた。

③　個別学習

今回の訪問で一番学びが大きかったのは個別学習である。ひとりひとりを見つめ、理解の程度をつかみながら丁寧に教育をしている。支援の必要な子どもには、それぞれの専門の教師がつき、言葉や計算について1対1で教えている姿をよく見た。栄養指導の必要な生徒には、カフェテラスで学習を進めていた。専門性が高く、自信を持って教えている。州のカリキュラムにそって、どの子もひとりひとり出来ているか確認しながら学習を進めている実際を観るにつけても、日頃が「出来ているだろう」「分かっているだろう」という自己判断で進めていっていることに罪悪感を感じる。

教育環境をもっと充実し、少人数で教えることが出来たら、また、クラスに複数の教師がいて、子どもひとりひとりのケアにつけたら、と考えてしまう。

(3) 授業をさせてもらったこと

① 書道

スコッツクリーク校の生徒たちは漢字に興味があるようで、美術の作品に漢字を書いたり、漢字のついたTシャツを着ているのを目にした。そこで、まず授業のはじめに、自己紹介をし、上田の「上」には、uponやonの意味があり、「田」は、rice fieldというように、漢字は一つ一つ意味を持ったものであることを説明した。また、日本語では漢字だけでなく、カタカナやひらがなの表記もされることなども話した。

それから、書道に使う用具の説明をした後、半紙に「春」という文字を書き、springの意味だと話した。また、漢字を書くのに筆順がかなりのウエイトを占めていることを話したがどれだけ分かってくれただろうか?

筆の持ち方は筆順を話しながら、何人かの生徒に書いてもらった。希望者はとてもたくさんいたが、ここは担任の先生に指名してもらい代表者に書いてもらった。和紙である半紙に筆で、墨を付けて書くことに関心を寄せていた。他のクラスでは、花という文字を書き、漢字と、花の絵、Flowerいう英語も書いて楽しんだ。

② 折り紙

千代紙を使って風船を折って、手のひらで突いて遊んだ。指先を使い、折り目をピッシリつけるのが難しそうだった。日本には、同じように紙で作られた紙風船というものもあるんだよと、持参していた紙風船をふくらませて突いてみた。みんな突きたそうだったので、自分で息を吹き込んで突いてごらんと、膨らますところからさせてみた。また、日本の新聞を正方形に切って持って行っていたので、それで兜を折って被った。日本の新聞ということや実際に被れるということからとても興味を持って取り組み、家に帰るときに被って帰った生徒もいたほどだ。

③ 阿波踊り

④ 紙芝居

⑤ こま回し

これらのものを指導しながら、日本でももう一度これらの良さを見直し、文化を守っていかなければならないと感じた。実際、折り紙は、手先を使うことから脳の発達によいとされ、アメリカでも折り紙や折り紙の本も売っている。

(4) 協定の締結と今後の交流計画

スコッツクリーク校が、ちょうど新校舎の工事ということで、忙しく、協定についても据え置きの状態になっている。しかし、校長先生の言葉や、メールに書かれているバーバラ先生の言葉からは、明るい展望が見える。先日、校長先生からいただいた手紙にもSend more information about the Partonership Project with your school. と書かれていたので、早急に準備をする予定である。

現在は、わたしと、バーバラさんのメール交換が交流のほとんどであるが、2学期からは子どもの活動の様子を写した写真やビデオ、絵画作品などを送ったり、メール交換もすることにしている。ビデオは行事や自己紹介などいろいろな場面を撮影し、いくつもの面から日本を理解してくれたらと思っているし、逆に、わたしたちが、アメリカの文化を勉強できればと思っている。